

## 日本学術会議化学委員会分析化学分科会（第24期・第2回）議事録

日時： 平成30年6月1日（金）10:00-12:00

場所： 日本学術会議 6-B 会議室

出席者（敬称略）：

一村信吾、加藤昌子、谷口功、竹内孝江、栄長泰明、齊藤公児、玉田薫、佐藤 縁

欠席者： 尾嶋正治

記録： 佐藤 縁

配布資料：

（資料番号なし） 第24期 第2回分科会 議事次第

資料 2-1 第24期 第1回分科会の議事録（案）

資料 2-2 平成30年度会議（分科会）開催計画について

資料 2-3 第24期第1回幹事会について（議事概要）

資料 2-4 IUPAC Workshop について

資料 2-4-1 Division V Committee Meeting

資料 2-4-2 IUPAC Workshop 開催内容

資料 2-4-3 47th IUPAC World Chemistry Congress & 50th General Assembly -IUPAC2019

資料 2-5 シンポジウム「イノベーション創出に向けた計測分析プラットフォームの構築」の共同主催について

資料 2-6 学術の大型研究への対応について

資料 2-6-1 日本学術会議科学者委員会 研究計画・研究資金検討分科からの連絡事項

資料 2-6-2 昨年度ヒアリング関連資料(1)~(7)

資料 2-6-3 マスタープラン 2020 の策定方針についてのアンケートのお願い

議事：

0. 配布資料確認

1. 第24期第1回分科会議事録の確認

一村委員長から資料 2-1 に基づいて「2020 マスタープランへの挑戦」「シンポジウム継続開催」「記録（報告書）を作成して残す」の3つを今期の活動中心とすることが確認され、修正なしで承認された。併せて、日本学術会議事務局より、今後議事録は公開となり、分科会等会議開催8週間以内に承認、9週間めにHPにて公開となる旨が報告された。これを踏まえて、第2回分科会議事録はメール承認のプロセスを進めることが了解された。

2. 今年度(H30年度)会議開催計画の確認

一村委員長から、資料 2-2 に基づき、本年度の委員会開催計画案が提示された。議論の結果、第3回分科会はシンポジウムに併せて9月6日に開催（場所は幕張メッセ）、第4回分科会を11月16日(午前10-12時)に開催、第5回分科会を12月27日の化学委員会の全体会議に併せて開催する方針が確認された。

3. 分析化学分科会幹事会（3月30日）の報告（資料 2-3）

一村委員長から、2018年3月30日に開催された第1回幹事会の概要が、資料 2-3 を基に報告された。主な内容は下記の通り

- ・ 「シンポジウムの継続開催」に向け、9月に日本学術振興会等とシンポジウムを共同開催する方向で準備が進めていること。
- ・ 「2020 マスタープランへの挑戦」に向け、準備スケジュールを検討したこと。

4. IUPAC Workshop 等 開催報告

竹内幹事より、資料 2-4 (2-4-1,2-4-2,2-4-3) に従って開催報告が行われた。主な内容は下記の

通り。

- ・ IUPAC Workshop には 85 名が参加。ポスターセッションを開催（奈良女子大学大学院生 9 件）。
- ・ WS に対する日本学術会議の後援申請が間に合わなかった。次回はしっかりとした準備が必要。
- ・ IUPAC のディビジョンミーティングは日本人の参加が少なかった。IUPAC からの各種連絡が日本学術会議にきているはずなので、対応できなかったことは問題。
- ・ データベース的な活動に関して全体的にコネクションが弱い印象。

#### 5. 公開シンポジウム「イノベーション創出に向けた計測分析プラットフォームの構築」 共同主催について（資料 2-5）

一村委員長から、資料 2-5 に基づいて、シンポジウムの企画案が提示された。主な概要は次の通り。

- ・ JASIS 展の機会を活用して 9 月 6 日午後に幕張で開催。分析化学分科会も同日開催する。
- ・ 日本学術振興会計測分析プラットフォーム第 193 委員会、日本分析化学会、日本分析機器工業会との共同開催
- ・ 前半が分析化学分科会からの報告中心、後半は NEDO の先導プログラム報告会とする案  
これをもとに審議の結果、分析化学分科会（学術会議）主催のシンポジウムとして申請することが承認された。

#### 6. 学術の大型研究への対応について

一村委員長から、資料 2-6-1～2-6-3 に基づいてこれまでの経緯説明が行われ、次の方針が確認された。

- ・ 日本学術会議科学者委員会研究計画・研究資金検討分科会から要請のあったアンケート（資料 2-6-3）に関しては、分科会としての回答は見送り、個別回答とする
- ・ 資料 2-6-2（昨年ヒアリング資料関係）を踏まえ、新しい方向性として SDGs をささえる分析化学、人材育成などの観点からプラットフォームを検討する

以上

